

中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

単元名 鎌倉時代の交通はどのように発展していったのだろうか（六浦湊の発展）	内容のまとめ B 近世までの日本とアジア （２）中世までの日本 （ア）武家政治の成立とユーラシアの交流
---	---

1 単元目標

- ・ 武士が台頭し、武家政権が成立して、武士による支配が全国に広まり、武家政権が発展していったことを資料から読み取ることで理解し、鎌倉時代の諸産業や交通の発達についての知識を身に付けている。
- ・ 武家社会の発展、諸産業や交通の発達と、文化の特色などについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
- ・ 中世の日本について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

2 単元を通して身に付けたい資質・能力

鎌倉時代の学習は、武家政権の成立、将軍と御家人との主従関係による封建制度、また執権政治、武士の台頭による新しい文化についての学習など多い。本単元では、謡曲『鉢木』のエピソードを紹介しながら、「いざ鎌倉」を導入として、鎌倉時代の土地を介した主従関係を学習する中で、交通や流通について取り上げ、陸運である鎌倉道および、海運である六浦を中心とした交通の発達と横浜との関連についても学習していきたい。

3 実践計画の概要

（１）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
鎌倉幕府の成立、元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。	武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)から(ウ)までについて中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
鎌倉時代を大観し、武士の台頭や武家政権の成立の様子などを諸資料から読み取り、理解している。	諸産業や交通の発達について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	中世（鎌倉時代）の日本について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。

(2) 単元の指導計画と評価計画 [3時間扱い]

学習活動と内容（時間数）3時間	主な資料（◆）と教師の支援（◇）など
1 鎌倉幕府の成立 源平の争乱から鎌倉幕府が成立する過程について、年表を読み取ったり、封建制度について理解したりする。	◆関連年表、幕府のしくみ ◇武家政権の特色について、理解させる。
2 鎌倉時代の交通の発展 関東の御家人が京都までどのような陸路を辿ったかを資料から読み取ったり、横浜市の白地図を利用して、鎌倉街道について作図したりすることを通して、鎌倉時代の交通の発展について理解をする。	◆謡曲「鉢木」、横浜市白地図、鎌倉街道要図、鎌倉七切通写真 ◇謡曲「鉢木」のエピソードから当時の陸路の様子を気が付かせる。 ◇新旧の地図を比較することで、旧街道が現在の主要道路となっていること読み取らせる。
3 鎌倉時代の人々の生活 本時 鎌倉の街並みや六浦湊のジオラマ、輸出入品に関する資料や交通網の発達について関心を持ち、湊の役割を理解することを通して、鎌倉時代の人々の生活の様子について考えを深める。	◆鎌倉の街並復元模型、宋・元から輸入した銅貨、経典、陶磁器 ◇陸上・海上交通の発展を通して、人々の生活の様子について気づかせていく。

4 本時目標

- ・鎌倉の街並みや輸出入品に関する資料を読み取り、当時の人々の生活の様子について考えを深める。
- ・鎌倉時代の陸上交通や海上交通について関心を持ち、六浦湊の繁栄を通して人々の生活の様子を主体的に追究する。

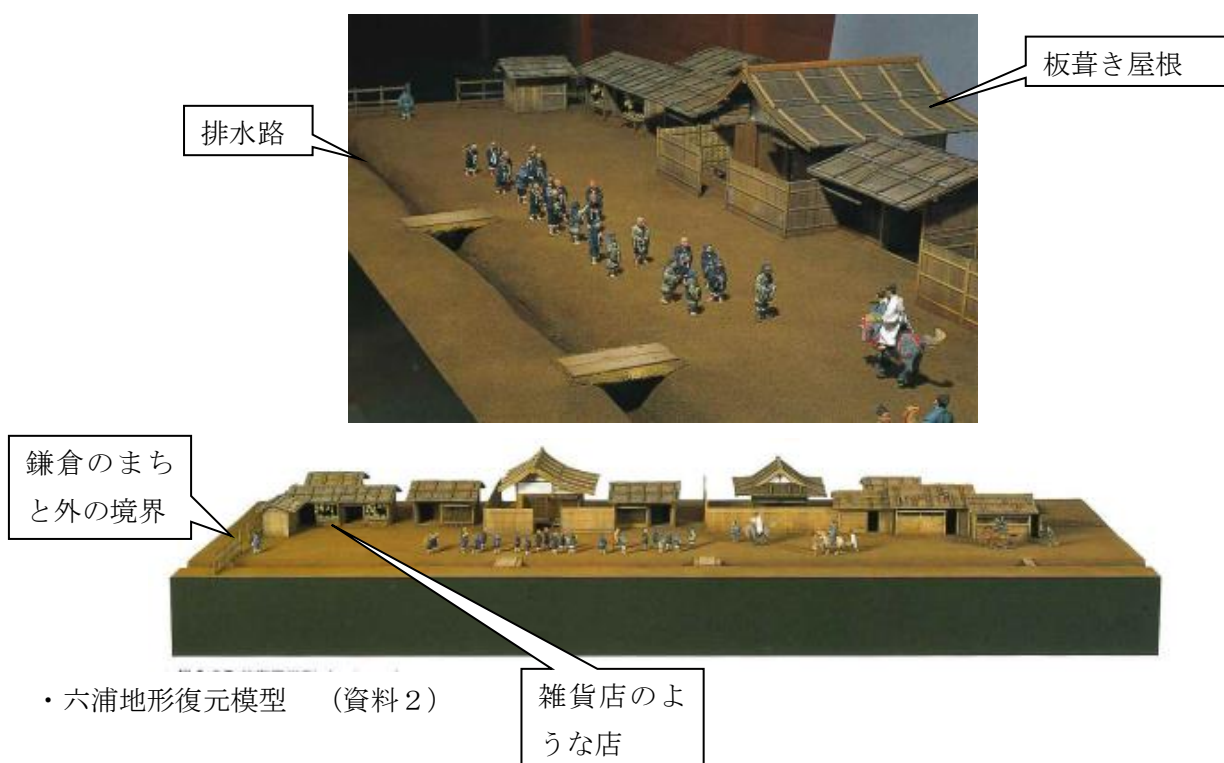
5 本時展開

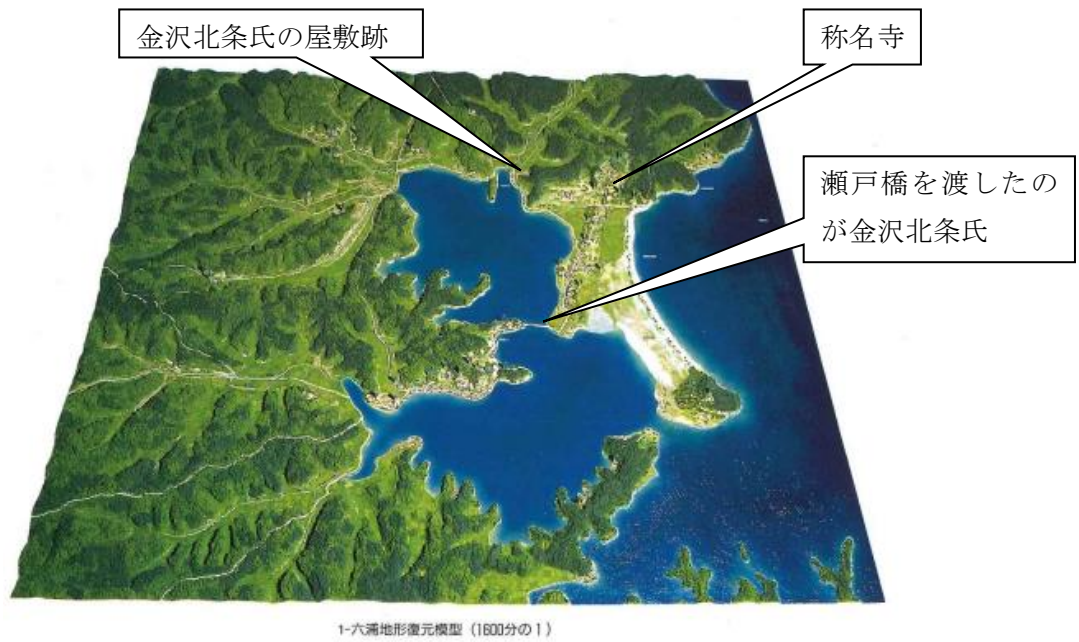
主な学習活動と内容	主な資料（◆）と教師の支援（◇）など
・鎌倉の街並復元模型や宋・元から輸入した銅貨、経典、陶磁器の資料などや、六浦湊の繁栄を通して鎌倉時代の人々の生活について考える。	◆鎌倉の街並復元模型（資料1）
【予想される生徒の反応】 S：武士、商人、農民、外国の人。	【発問例】 T：どんな人々が街道を行き交っていたのだろうか。
【予想される生徒の反応】 S：宿場、馬借、問（問丸）、市。 S：交通の要地ができる。	【発問例】 T：人の行き来が多い道では、何が発展するだろうか。

・「湊」にはどのような役割があるのか、予想する。 【予想される生徒の反応】 S：外国とやりとりをする重要な場所 S：他国の文化を受け取ったり、日本の文化を伝えたりする場所	◇鎌倉の東、東京湾に面した海の玄関口である「六浦湊」がどのような役割を担っていたのか考えを広げる。 ◇現在の地図と模型を比較することでその変化について考えることができる。 ◆六浦地形復元模型（資料2） ◆現在の六浦周辺（資料3） ◆宋・元から輸入した銅貨、経典、陶磁器（資料4） （発問例） T：「湊」にはどのような役割があったのだろうか。
・交通の発達、鎌倉時代の人々の生活をどのように変化させたのか、考えを深める。 【予想される生徒の反応】 S：人の集まる所に市ができるようになった。 S：特産品や都から運ばれた織物、工芸品などが売られるようになった。 S：物を運搬する仕事もふえた。	◇陸上交通（鎌倉道、白山道）や海上交通（船）によって物資が鎌倉まで運ばれることで、交通が発達したこと、交通が発達することで、物資だけではなく、人々の行き来も多くなったことにふれさせる。 ◆六浦地形復元模型（資料2） 【発問例】 T：交通が発達することになり、人々の生活はどのように変化したのだろうか。

6 博物館との連携（参考文献など）

- ・鎌倉の街並復元模型（資料1）





西側から見ると

※湾の埋め立ては江戸時代から



南側から見ると



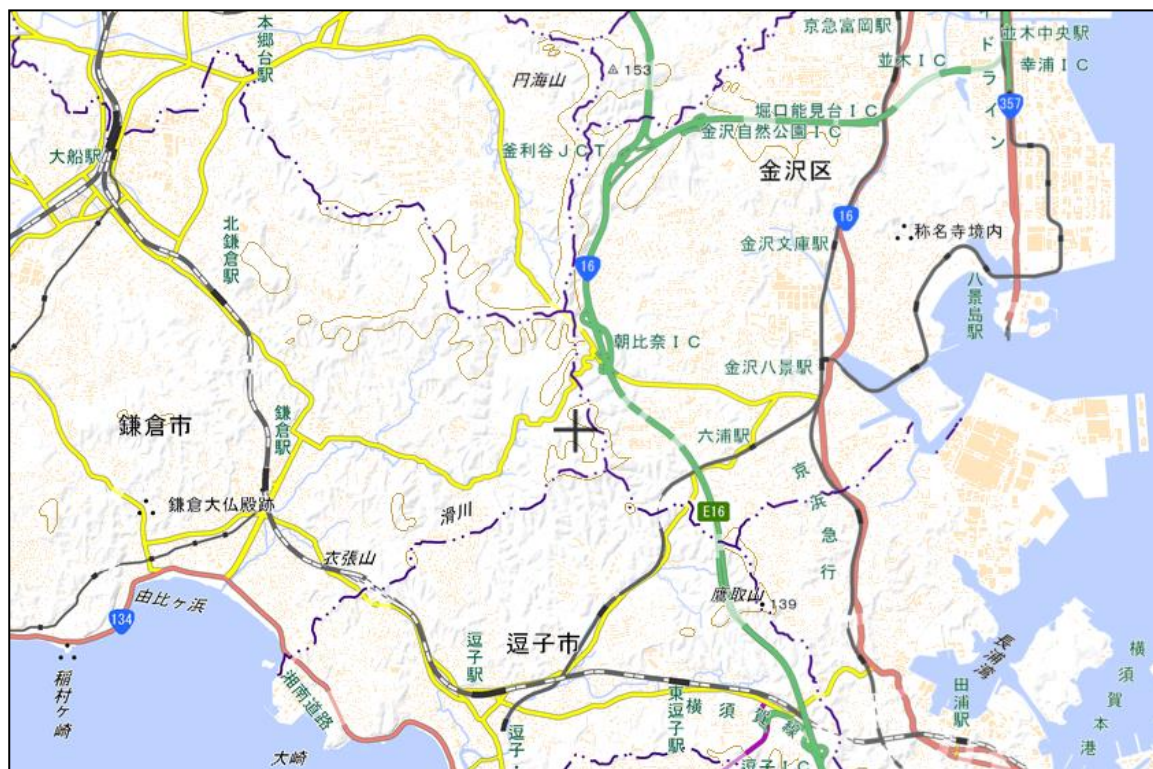
現在の六浦周辺（資料3）

（地理院地図 / GSI Maps | 国土地理院より）



（参考）六浦から鎌倉の位置関係

（地理院地図 / GSI Maps | 国土地理院より）



※金沢区役所が発行している金沢発見殿(其の式)【金澤今昔地図】が地図の解説文も付いて、より分かりやすい資料ですが、現在も配布されているかはわかりません。

- ・ 宋・元から輸入した銅貨、経典、陶磁器（資料4）



その他 【博物館より参考事項】

- ・ 六浦津 鎌倉の東端に位置する湊。「吾妻鏡」には都市鎌倉の4つの境を「北は山内・南は小坪・東は六浦・西は片瀬」と記している。今の鎌倉市域を少し超えている。
 - ・ 鎌倉から六浦にのびる道を「六浦道(金沢道)」という。この途中にあるのが、朝夷奈切通しで、執権の北条泰時が御家人たちに命じて開削したと資料に出てくる。六浦津からの道が整備されると、房総や関東内陸の人や物が鎌倉に入りやすくなったと思われる。
 - ・ 鎌倉の街並み復元模型は「一遍上人絵伝」の一場面を模型にしている。ちょうど化粧坂の道を通って上人一行が鎌倉に入ってきたところである。左手の柵は鎌倉の町の境である。手前側には溝があり、鎌倉の町中には排水路が設けられていたようである。屋根は板葺き。犬もいる。境に近い建物をのぞくと物を売っている様子が見え、軒からぶら下がるのはワラジである。これは旅人相手に売っている。
- ※時間に余裕があれば、当時の様子を表現した他の絵巻物の資料から、犬などの動物の扱われ方や商売の様子を見つけることも楽しい授業となる。